

解説

コロナ禍での海外展開

～ジャカルタにおけるチリウン川放水路・ブカシ水道・下水道(ゾーン1)～

かりや みつお
刈谷 光男

機動建設工業(株)
執行役員国際事業部長
(台湾機動兼任)

1 はじめに

一昨年(2020年)の元旦、あれこれと海外展開について考えながら新年を迎えました。といたしますのは、ミャンマーやインドネシアなど、予てから注目していた案件が一斉に動き出す重要な年だったからです。

筆者は1月9日～19日まで台湾出張、1月27日～2月14日までジャカルタおよび台湾出張と飛び回り、この頃、中国では旧正月の民族大移動が始まり、ニュースでも新型コロナウイルス(COVID-19)の話題が連日取り上げられるようになっていました。

しかし、この時点では、まだCOVID-19感染症が現在の様な世界的なパンデミックになり、長期間続くとは夢にも思いませんでした。

その後も、3月3日～18日の期間、台湾とミャンマーに出張しましたが、その頃から渡航・入国制限がはじまり、2020年の海外出張は、これが最後となりました。日本でも県をまたぐ移動の自粛が求められ始めた時期でもあります。

2021年に入ってから、世界各国や地域では流行の波が波状的に押し寄せ、中々先が見えない状況でした。しかし、ワクチン接種が開始され、ウイズコロナによる経済活動の再開など、最近では社会全体が動き出す感があります。

インドネシア案件もコロナ禍の中、スピード感は無しも

のの着々と進み、Webでの打合せを続けると同時に、コロナ禍の波を縫って5月と10月に渡航して現地打合せをすることができ、着工の目途が立ちました。

以下、2022年から始まるインドネシア案件を紹介します。

2 CILIWUNG(チリウン)川放水路

当工事は、旧河川のチリウン川と既設放水路のバンジルクヤナルとを地下トンネルで結ぶことによって、ジャカルタ市内の洪水を防止する目的で2014年に着工し、2015年12月までにアウトレット側が完成しました(本誌2016年1月号¹⁾で報告)。

しかし、インレット側の用地買収が遅れ、アウトレット完成後6年を経過して漸く着工する運びとなりました。タイミングよく2021年11月6日の着工式には、訪「印尼(インドネシア)」中の筆者も参加することが出来ました(写真-1、2)。

2.1 インレットの工事概要

インレット側は、用地買収の関係で当初計画より短くなり、かつ、線形も変わりましたが、工事概要は以下の通りです(図-1、2)。

プロジェクト名：CONSTRUCTION OF FLOODWAY
CILIWUNG RIVER TO
KANAL TIMUR (KBT)

事業費負担：インドネシア政府

受注企業：WIKA-JAYA KONSTRUKSI KSO

本邦企業：機動建設工業(株) (ZoneAの施工)

推進管：呼び径3500 (外径4,050mm)

一体成型鉄筋コンクリート管

工法：土圧式超大口径管推進工法

土被り：6.8～9.5m

地下水位：GL-2.0m

土質：礫混り粘性土

推進距離および曲線半径等：

①インレット (サウスライン) L=578.7m R=247.5m

②インレット (ノースライン) L=580.3m R=252.5

※Zone (印尼語表記：ZONA) A (推進部分) と Zone (同：ZONA) Bが今回のプロジェクト

本稿寄稿時には、立坑土留壁の杭打ちがはじまりました。弊社では、3月後半からの発進に備えて1月よりアウトレットで使用した機械の整備を開始し、2022年末の完成を目指しています (写真-3～5)。



写真-1 着工式の様子



写真-2 中央が筆者、右はPMのFarida Maharani



図-1 チリウン川放水路計画概念図



図-2 インレット側 開削および発進部付近平面図